

# 水の文化



# 合意 の 水位



- 長坂寿久「オランダモデル 21世紀型合意形成のあり方」
- 「水管理国家の政策転換は話し合い」
- 「水の地域政府」
- 水の文化楽習実践取材「都市化する土地改良区の合意形成」
- 後藤 猛「オランダ ジョーク」
- 「砂丘はオランダのめぐみ」
- 「コントロールされた自然」
- 長坂寿久「オランダモデルから見た日本」
- 「世間の合意形成」
- 古賀邦雄 水の文化書誌「西ヨーロッパ」

水の文化 February 2005 No. **19**

水の文化  
2005  
19



## ミツカン水の文化センター

表紙上：低い水路から高い水路へ水を送り出す、オランダの風車。その役目は現在、蒸気エンジン、電気モーターが受け継ぎ、多くは観光施設や個人住宅となっている。しかし、アムステルダム郊外の3連風車のように、現役で働く風車も残っている。

表紙下：ホルダーでの生活を知ると、オランダの木靴も違ったものに見える。完全防水のため、庭仕事の際に今でも重宝されるという。

裏表紙上：アムステルダムのダム広場にある、オランダの標高基準点 NAP (New Amsterdam Pile) の標識。国内すべての水位が、このプレートを基準にしている。合意の象徴として撮影する東洋人を奇異に感じるのは、オランダの人々にとっては当たり前の風景だからだろう。右の目盛りは、水路の水位がNAPの基準よりどれだけ低いかを表している。温暖化によって上昇する海面は、この基準点よりもはるか上に存在する。

裏表紙下：デレイケの生まれ故郷の漁村、コルンスプラート。堤防の内側の住宅街は、海面よりずっと低いところにある。

